

桜蔭俳話会

第二〇〇回通信句会 結果

(平成二十三年冬 選句八句、特選には◎を付ける)

11点◎①幸せの端にいるらし福笑い	みさ	9点◎①大寒の夕陽が山を大きくす	梅乃
5点 胃カメラにさぐらるる腹寒波来ぬ	友子	街並の眠りも忘る年の暮	ゆき乃
2点 冬柿のほどほどの木にほどほどに	眞三	2点 紅梅の満開の庭売家礼	幸
2点 小さき庭に肥料の山や春隣	ヤエ子	5点 着ぶくれの背に孫の手の出番かな	与史
4点◎①何となくそこはかとなく年惜しむ	溪水	1点 元旦や紋付羽織の犬罷る	幸枝
3点 静かなり路地静かなり初茜	文枝	3点 富士の方開けし庭や初景色	溪水
2点 顔一面マスクの人や医に通う	ゆき乃	7点 終い風呂柚子のすき間の手足かな	みさ
2点 喧噪に鐘の音和して年明ける	幸枝	1点 寒燈もただ頼りなり帰り道	文枝
4点◎①工作中ため息一つ大晦日	美紀子	5点 初春や煮しめの味に母恩ぶ	正子
2点◎①次々と津波のごとく寒波来る	梅乃	6点 蒼天を泳ぐがごとし出初式	友子
8点 悴む手に診察券の多さかな	与史	千両を食べ尽すかや小鳥たち	溪水
11点◎①禪寺のあり大寒の突きあたり	貞勝	3点 初旅の真青に飛行機日和かな	幸
1点 初鴉原稿依頼の電話かな	秀一	5点◎③梅一輪伝令のごと目白来る	秀一
2点 はぐれ鳥風に遊ばれし冬の海	正子	5点◎①息白し岳拾ふ人捨つる人	守
寒玉子時計の読めぬ婆やかな	幸	3点◎①宴すみて飲む水うまし冬の朝	眞三
4点 あたたかし蒲団に二度寝の老の朝	佳史	2点◎①寒月の光まといて庭石光る	文枝
4点 雪とけてまた雪となるこの世かな	守	6点◎③入院の窓初富士を独り占め	与史
1点 健祥の願いをこめて賀状出す	忠夫	8点◎①水鉢の薄氷小さき天映す	梅乃
料亭にしゃれた門松開く門	眞三	1点 鉄路走るコンテナ数えつ三日果つ	貞勝
1点 初詣夫と笑顔で手を合わす	美紀子	5点 寒木瓜のひしめく蒼茜さす	忠夫
11点◎①乳離れの児のほほに付く七日粥	友子	5点 鼻先にそつと風花白馬村	佳史
4点◎①日の出前乱舞果てなし冬かもめ	佳史	6点◎①冬満月枯山水を渡りゆく	みさ
5点 納骨の扉重たし霜柱	守	3点 寒紅のつきし湯呑に指あてる	幸枝
1点 水仙咲き凍てつく庭に日射し呼ぶ	忠夫	1点 冬日和我れより多し診察券	ゆき乃
頑張ろう願掛け仰ぐ初日の出	正子	1点 今年こそ祈つて引くは初みくじ	美紀子
11点◎④着ぶくれてより福耳の似合ひける	貞勝	5点◎①軽やかにけんけんべつと日脚伸ぶ	ヤエ子
真青なる冬風見るや按針塚	ヤエ子		
2点 大寒の空はかはらぬむかしかな	秀一		

得 点 順

十一 点

- ④ 着ぶくれてより福耳の似合ひける 野上 貞勝
 ① 禅寺のあり大寒の突きあたり 野上 貞勝
 ① 乳離れの児のほほに付く七日粥 藤本 友子

- 初春や煮しめの味に母偲ぶ 柳沢 正子
 寒木瓜のひしめく蒼茜さす 安中 忠夫
 鼻先にそつと風花白馬村 秋山 佳史

十 点

- ① 幸せの端にいるらし福笑い 小川名みさ

四 点

- ① 何となくそこはかとなく年惜しむ 瀬戸 溪水
 ① 仕事中ため息一つ大晦日 青木美紀子
 ① 日の出前乱舞果てなし冬かもめ 秋山 佳史
 あたたかし蒲団に二度寝の老の朝 秋山 佳史
 雪とけてまた雪となるこの世かな 増田 守

九 点

- ① 大寒の夕陽が山を大きくす 小川名梅乃

八 点

- ① 水鉢の薄氷小さき天映す 小川名梅乃
 悴む手に診察券の多さかな 平井 与史

(以下 省略)

七 点

- 終い風呂柚子のすき間の手足かな 小川名みさ

六 点

- ③ 入院の窓初富士を独り占め 平井 与史
 ① 冬満月枯山水を渡りゆく 小川名みさ
 蒼天を泳ぐがごとし出初式 藤本 友子

五 点

- ③ 梅一輪伝令のごと目白来る 佐渡谷 秀一
 ① 息白し缶拾ふ人捨つる人 増田 守
 ① 軽やかにけんけんぱつと日脚伸ぶ 岩野ヤエ子
 胃カメラにさぐらるる腹寒波来ぬ 藤本 友子
 納骨の扉重たし霜柱 増田 守
 着ぶくれの背に孫の手の出番かな 平井 与史